

第24回神無一族の氾濫

担当 神無七郎

☆ついにパラも600号。「氾濫」

が始まったのは450号。12年

を越す歴史と不思議な数字

の巡り合わせに、深い感慨

を覚えます。

①アンチキルケばか詰 11手

「七色星団の戦い」
神無太郎

				銀						一
				銀						二
			桂	桂	桂					三
										四
										五
										六
										七
						王	王	王		八
						王	王	王		九

持駒 なし

51桂左成 29圭 同龍 82龍

18金、同全 31全、同桂成

29圭、同杏 11杏、28銀、

同金 41金、同桂成 29圭、

同と 23と、29金迄 11手。

(は復活位置)

【アンチキルケ】駒取りを行

った場合、駒取りをした駒

は最も近い初期位置に戻る。

(ルールの細則や例題等に

ついては昨年12月号の出

題稿を参照してください。)

今川健一 取っては戻るの繰

り返し。ああ忙しい、目が

回る。

佐藤善起 最初の29成桂を

同金と取りたくなって難解。

砂川順一 何で29成桂をと

っていくかが面白い。けっ

こう悩みました。

☆玉の戻り位置である51地

点を52銀が押さえている

ので、受方の駒をはがせば、

取禁的な詰上りが実現でき

ます。そのため、攻方は駒

を次々送り込み、受方の駒

も次々と自陣に戻って目も

眩むような駒の乱舞が出現

します。手順にも適度な紛

れがあり、アンチキルケの

魅力を伝えるのに最適の作

品となっています。

小五郎 28銀が打てるよう

に順序良く、と考えた。ネ

ーミングがびつたりで詰め

上がりも七色。

☆本作、初形右隅の塊と、詰

上りが共に七色という趣向

でした。実は今回の「氾濫」

の①から③はミニ特集で、

本作が七色、②が詰上り一

色、③が持駒一色の趣向な

のです。更に本作は命名に

もうひとつの意味が：

作者 細部は省くが、要する

に、52銀 2 ヤマト、19玉 2

ドメル艦隊旗艦。壮絶な空

中戦の再現のつもり。

名越健将 「宇宙戦艦ヤマト」

のワープ航法戦線の舞台。

まさか詰将棋のモチーフに

なるとは…、絶句！

②アンチキルケばか詰 25手
神無七郎

				王						一
				王	王					二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 金

51金、31玉、41金、32玉、

31金、33玉、32金、34玉、

33金、35玉、34金、36玉、

35金、37玉、36金、48玉、

45金、49金、57玉、48金、

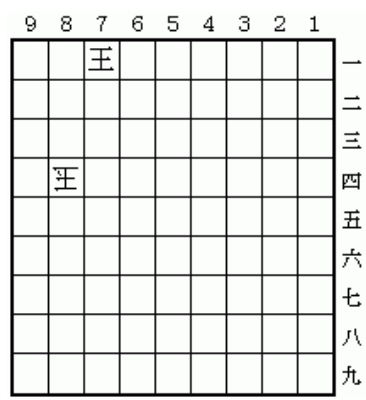
68 玉、58 金、69 金、同玉、51 玉
62 銀、41 玉、32 銀迄 25 手。

☆還元玉と詰上り一直線に並ぶ銀が狙いの作品です。5筋の駒取りで、金の戻り位置を右か左か選ぶ選択肢が一度現れますが、考える場所はこの前後くらい。手数割に易しい作です。

ほの字—45 銀を奪って正面攻撃できると分かったら急に解が見えてきた。一周したら銀2枚の向きが変わり整列した。

川並洋太—手数は一番長いですが一番簡単ですね。1本道ですが、36 金↓45 金がい感じだと思えます。
吉川慎耶—逆算での創作でしょうか？
☆正算・逆算双方の「調整」による創作です。

③アンチキルケばかり殺詰8手
神無三郎



持駒 香4
89 香、88 飛、87 香、86 角、
85 香、同玉、51 玉、58 香、
同飛成、82 龍迄8手。

岩本修—詰上りがすぐに見えるので逆算で解きました。初手からどんどん8筋に駒柱が立っていくのが面白いですね。
太田啓好—易しいが好作と思う！
今川健一—香打に合駒、アン

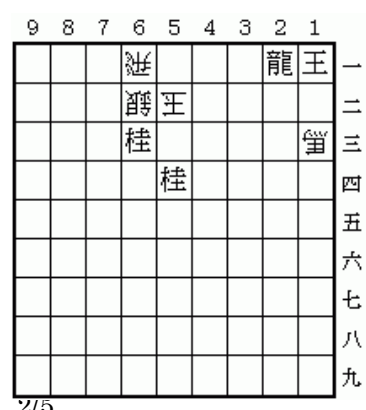
チキルケの妙手続出、これは好作。

☆①に次ぐ13名の正解者を得た本作。持駒香一色の双裸玉からアンチキルケらしい手順が現れます。59地点に利かせる86角がポイントで、前後の合駒や香打の位置をすべて限定する鍵となっています。

作者—何回もつづれた作品の検討中、ふつとひらめいたのがこの作。手数と香4枚の関係で考えやすく客寄せにもなったし、満足です。
☆本作の鑑賞が終わったら、左右反転させた図を解いてみてください。こちらも唯一解の完全作です。差分が小さいので、ツインとしての出題には向きませんが、盤の左右が非対称というア

ンチキルケの特徴を理解する良い実例となるでしょう。

④アンチキルケばかり殺詰8手
北村大路



持駒 なし
51 桂成、同銀、31 銀、32 龍、
42 銀、41 龍、53 玉、51 龍、
同銀、71 銀迄8手。

佐藤宣多—銀を2箇所復活させる。すばらしい作品だと思います。
作者—七郎さんに頂いたテーマ「2度5筋で取って戻る

手があり、1回目と2回目で戻り場所が違う」で考えました。

☆アンチキルケでは5筋の駒取りで戻り場所が2つ生じる場合、取った側の選択となるのですが、同一の駒で左右の選択を両方やろうというのが本作のテーマです。しかも本作では、それを受方の駒で実現するという難しい条件を加えています。ほの字―銀は千鳥に使え、舞うように。

太田啓好―63桂がなければ1手。54桂の配置がうまい！

市村道生―飛車筋を通すのに苦勞。手数割に難解。

☆この種のテーマは無理やり実現すると、鑑賞に堪えない作になることがあります。が、本作は自然な配置と短

い手数でテーマを効率的に実現しており、それが銀の華麗な動きを強く印象付ける効果も生んでいます。テーマに気付かなくても楽しめる作ではないでしょうか。

⑤アンチキルケばか自殺詰12手

神無六郎

持駒 角

44角、同歩<43歩、同角成
 88馬、52香、97馬、75角
 54歩、63玉、96馬、85飛、
 53歩成、同角<22角迄12手。

☆本作と次作は難解なため正

解者は駒井氏ただ一人。テ

ーマはずばり3重王手！

作者―タツチの差で第一号になれたのは幸運。「攻方33

龍、玉方43歩」の配置ならば余詰消しの42歩は不要

となる。どちらを選ぶかで大いに迷った。

☆本作はアンチキルケでの3重王手第一号局ですが、3重王手を形成する飛角香をすべて合駒で発生させるのがすばらしい構成。また頭

2手に原形のまま角を渡す「居食い」の巧妙な序が付

いていて、単なる一番乗りとは言わせない傑作に仕上がっています。

駒井信久―これが一番あとまで残ったが、⑥との共通点

(王の斜め後ろに桂)でピ

ンときた。都に最も映える詰上り。

☆桂の配置で3重王手を推理

するとは、さすが駒井氏です。桂に限らず、玉の斜め

を封鎖する形は、両王手などを含む作品で多用される

配置。皆さんも「玉の斜め」にご注意を。

☆ところで本作にこんな誤答がありました。

63角成、同玉、45角、54歩、同龍<28龍、54角、68龍、66飛、64歩、53玉、63歩成、同角<22角迄？

☆鮮やかな両王手のため、これで詰んでいるように見えますが、最終手に対し66王と飛を取れば、王が59に戻って逃れてしまいます。ルールに慣れていないと、うっかりしやすい所です。

⑥ アンチキルケばか自殺詰 12手
もず

持駒 角

34角、45飛、同桂、29桂、
45香、51飛、52桂、同角成
、88馬、54角、89馬、78飛、
48桂、同香生、11香迄12手。
駒井信久―端玉ではもった
ない気がする三重王手の詰
上り。限定打、限定合の応
酬は見事。
☆こちらにも3重王手の作品で
すが、盤面わずか4枚とい

う、極限まで切り詰められ
た初形に、妥協を許さぬ作
者の創作姿勢が伺えます。

手順は一見しただけでは意
味の分からない角の限定打
から始まり、盤面全部を活
用するダイナミックな展開
を見せます。その流れの中
にアンチキルケ特有の効果
がふんだんに盛り込まれ、
一部の隙もない傑作となっ
ています。

作者―発端の着想は4手目か
ら香合↓桂合↓角合の一連
の流れ。三重王手で詰め上
がったのは幸運でした。

☆⑤⑥両方とも正解者が少な
いのが残念ですが、手順を
並べるだけでもその凄さは
伝わってくるはず。解
けなかった方も、ぜひ鑑賞
してください。

⑦ アンチキルケばか自殺詰 14手
たくぼん

持駒 金 金銀歩歩

66歩、同金、61金、76銀、
同桂、81桂、55金、同角、22角
75金、同歩、73歩、74銀生、
同銀、71銀、64金、同香、91香
66歩、同飛、82飛迄14手。
小五郎―受方には駒が一種類
ずつ、ぴったり元の場所へ
という狙いが伝わってきて
面白い。
駒井信久―意味が分からず苦

戦しかけたが、趣向に気づ
けば楽しく解ける。

作者―7種復活を最短手数で
表現してみました。アンチ
キルケの楽しさを少しでも
感じ取って頂ければと思い
ます。

☆前2題とうって変わって、
こちらは狙いが分かれば簡
単に解けるユーモア作。「ア
ンチキルケ入門」で大活躍
するたくぼんさんのサービ
ス問題でした。

佐藤宣多―これは狙いがわか
ったので簡単。でもこの構
想を実現できるのはすごい。
次は順列だー!!
☆実は配置を気にしなければ
順列7種復活も楽に実現で
きます。この条件はどれだ
け洗練された表現ができる
かが問われそうですね。

